

*導入の祈り・・・(杉田)

2011年3月11日。 あの日から2年の歳月が流れ、3年目を歩んでいる私たち。

(2013年1月末現在) 東日本大震災で 亡くなられた方 15,880人

行方不明の方 2700人

避難したり、転居した方 316,353人

ここに改めて亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。



瓦礫の山々や、破壊された家や建物などは、時間とともに目の前から姿を消しつつあります。海は穏やかさをとりもどし、海の幸を運んでくれています。そのような町や海の様子を見た訪問客は言います。「ずいぶん復興が進んだんですね」と。 本当にそうでしょうか？

被災者の方々は、前向きに生きようと自らを励まし、互いに助け合いながらも、あの悲惨な、つらい体験を忘れることはありません。突然とも思えるあの 天災と人災。地震、津波、原発事故、

放射能汚染で多くの命を失い、生活の基盤や、家族、ふるさと、親しい地域の人々との生活も分断破壊されました。これらの痛みや傷は、2年や3年で癒されるものではありません。一見平穏に見える日常生活の中で、突然、ある言葉、ある色、自然の中の花や、雪、水などからもつらい記憶が呼び起され、不安や孤独で落ち込む体験をする人々。

そのような中で、ゆっくり地味な動きであっても仮設住宅訪問や、お茶会で話したり、歌ったり、ともに作業をしたり、ささやかなイベントなどを通して、また、遠くからのさまざまな支援を通して、人と人が出会い、かかわっていくことで、再び新しい人とのつながりを育てていく努力が続けられています。

被災者同志の助け合い、励ましあいも見られます。

黙って共にいる中で、一杯のお茶をゆっくりいただきながら、一人暮らしの84歳のおじいさんが言われました。「誰かと一緒にいることは、心が和んでいいもんですね」と。

校舎が壊されたり、多くの人々が避難し、転居したことで、この3月末、たくさんの学校も閉校、統廃合を余儀なくされました。ここでも、子供たちと親たちの新しい戦い、努力が続いています。

慣れない環境での生活の立て直しと人間関係づくりが。

「復興」の掛け声は多く聞かれても、それが形を見せてくるのは、まだまだ多くの時間が必要です。多くの人が先の見えない中に置かれています。住居の目途が立たない、仕事がない、子供の健康と教育と将来への不安、高齢者、一人暮らし、障害を持つ人々の不安など、日本中どこでも直面している問題が、「被災」という出来事と二重、三重に人々の重荷になっています。

このような苦しみの中から必ず、新しい「かかわり」や「いのち」が芽ばえ、成長していくことを私たちは希望し、祈っています。そして、伝えます。「みなさんを忘れていません」「心を寄せてともに

歩んでいきます」と。 みんなが「人間らしく生き、生活していけますように」と願いながら。
命の源であるいつくしみ深い神さま

今日また、この私たちの現状、特に被災された人々の現状を「つぶさに見、その叫び」に心をとめてください。被災された方々との連帯を強め、原発事故の収束と被災地の復興が一日も早く進んでいきますように、必要な助けを与えてくださいますように 復活された主イエス・キリストによってお願いします。

